

2月21日(木)~3月21日(木・祝) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : ピーター・バラカン

1951年ロンドン生まれ。ロンドン大学日本語学科を卒業後、1974年に音楽出版社の著作権業務に就くため来日。現在フリーのブロードキャスターとして活動、「Barakan Beat」インター FM、「ウィークエンド・サンシャイン」NHK-FM、「ライフスタイル・ミュージアム」Tokyo FM、「ジャパノロジー・プラス」NHK BS1、などを担当。著書に『ラジオのこちら側で』岩波新書、『200CD+2 ピーター・バラカン選 ブラック・ミュージック アフリカから世界へ』学研、『わが青春のサウンドトラック』光文社文庫、『猿はマンキ、お金はマニ 日本人のための英語発音ルール』NHK出版、『魂(ソウル)のゆくえ』アルテスパブリッシング、『ロックの英詞を読む』集英社インターナショナル、『ぼくが愛するロック名盤 240』講談社+α文庫、『ピーター・バラカンの音楽日記』集英社インターナショナルなどがある。

今回のセレクトCD

1.



Chris Thile / Thanks For Listening (Nonesuch / 564711-2)

パンチ・ブラザーズの中核人物でもある天才マンドリン奏者、クリス・シーリの最新ソロ・アルバムです。「聞いてくれてありがとう」というタイトルは、彼がホスト役を引き受けたアメリカの老舗ラジオ番組のために書き下ろした楽曲を特集していることを示唆するものです。一般のポップ・ソングとは一線を画した、やや意外なメロディとコード進行にもかかわらず、ソフトで聞きやすく、耳に心地の良い音楽です。

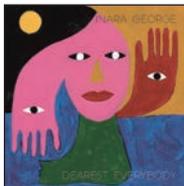
2.



I'm With Her / See You Around (Rounder / 1166100317)

セーラ・ワッキンズ、セーラ・ジャローズ、イーファ・オードノヴァンという3人の女性シンガー・ソングライターは、それぞれフィドル、バンジョー&マンドリン、ギターで伴奏しながら、聞く人が思わず手を止めて向き直ってしまうほど心に刺さる素晴らしいハーモニーで歌います。クリス・シーリとの仕事を通じて一段と注目度が上がってきた彼女たちの活動は、今後ますます脚光を浴びるに違いありません。

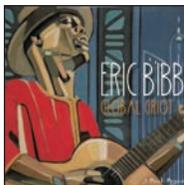
3.



Inara George / Dearest Everybody (Ca Va? / HYCA3078)

イナラ・ジョージは渋めのロック・バンド、リトル・フィートのロウエル・ジョージの娘ですが、彼女が5歳の時に亡くなった父とは異なったスタイルのシンガー・ソングライターです。ジャズにもクラシックにも興味がありそうな、洗練された感覚の曲を落ち着いた大人の味で聞かせます。30代で亡くなった父の年齢を超えた今、彼や母のことにも触れる曲で自分の感情を淡々と表現します。

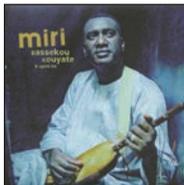
4.



Eric Bibb / Global Griot (DixieFrog / DFGCD8810)

ニューヨークの音楽一家で育ち、今はスウェーデンを拠点とするエリック・ビブはフォーク感覚で古いブルーズを歌ったり、アフリカのミュージシャンと共演したりするアフリカン・アメリカンのシンガー・ソングライター。今の社会で起きる不条理について誠実に、時にアイロニも込めて、決して攻撃的にならずに平和主義的な世界観を伝えます。アコースティックなサウンドがとても美しいです。

5.



Bassekou Kouyate & Ngoni Ba / Miri (Out Here / OH 032 CD)

西アフリカのマリ出身のバセク・クヤーテが演奏するンゴニは素朴な弦楽器ですが、そのウクレレほどの大きさから想像しがたい表現力とエネルギー溢れる演奏をします。彼の親戚からなるグループ、ンゴニ・バーは様々なサイズのンゴニを奏で、リード・ヴォーカルは奥さんのアミ・サコ。友情、嫉妬など、人間関係についてまじめに取り組んだ歌が多いですが、歌と演奏の素晴らしさだけでうっとりする音楽です。